



▲広々と快適なダイニングとキッチン。調理しながら子供の顔が見え安心。



(左) 洗面台はアクリル人工大理石を使用。お子さんが乱暴に扱っても安心。
(中) 遠赤外線ラジエントヒーターとIHのコンロ併設のレンジ台。
(右) 家族とつながりの持てるキッチンカウンター。



外壁のペンキは、奥様厳選の特注もの。周辺環境にあわせ、木目が目立たないように配慮した。



▲玄関ドア。ご主人の強い意思で、鍵のかけ忘れを気にしないよう済むオートロック式にした。



▲反対側から見る。明り取りの窓を多くした。

実例紹介
3 <高橋邸>

広島県・海田町

閑静な市街地で花開いた
「都市型」ログハウス生活

ログハウスの最大の魅力のひとつは、その野趣あふれる外観やつくり。でも、住人には、日常にマッチしていることがむしろ重要だろう。生活スタイルにつくりを合わせる、その理想形がここにある。

住宅街にマッチする
白い外観のログハウス

広島市に隣接する、人口3万人の都市・海田町。その閑静な住宅街に、高橋さんのログハウスは静かに建っている。

すっきりとした外観は、空によく映えるものの、街並みにおいては、決して、目立ちすぎず、むしろ、よく溶け込んでいる。

ログハウスなのに、都市の景観にマッチしている、その最大の要因は、外壁を覆っている塗装にある。厳選に厳選を重ねて塗料をお選びになった奥様は、こう語る。

「外の景観に対しては、木目を見せないようなペンキにしたいと思いました。自分で探して、サエラホームさんに『仕入れてください』と頼みました。嫌な顔ひとつせず、快く、引き受けてくださったんです」

生活圏にいきなり入り込む丸太造りは、インパクトが強すぎるだろうと、ご近所への心遣いを利かせた結果、選んだ選択肢が角ログにブルーグレイのペンキと漆喰の外壁だった。その甲斐あって、ログの住まいは、道行く人を驚かせず、ほどよい佇まいを見せている。

サエラホームさんの度量の
大きさが理想のマイホームを実現

特注のペンキも「嫌な顔ひとつせず」受け入れてくれたというサエラホームさん。その度量の大きさは、今回、メーカーを決めるに当たり、最大の要因になった。

「嫌な顔をせずに、何でもOKしてくださいなんです。『あのメーカーのものはダメだ』などは、一度も言われませんでした」

奥様が、インターネットで調べたアイテムをとりあげ「これが欲しいんです。今、これくらいの値段だけど、どう思いますか？」などと尋ねれば、いつでも気軽に話を聞いてくれた。とても相談に乗ってくれやすい。

例えば、こんな一件があった。

懸案はキッチンのレンジ台。遠赤外線ラジエントヒーターのコンロを希望したが、お湯を沸かすのが遅い。そこで、IHのコンロも併設したいと考えた。結論として、IH2口、遠赤外線2口のレンジ台を探したが、残念ながら国内メーカーでは見つからず、唯一見つかったのが、ドイツのメーカーのものだった。しかも、日本には正規輸入品がない。

「どうにかできないだろうか？」サエラホームさんは、現地に連絡をとり、手配をしてくれた。

それと、ガレージ。鉄筋造りのガレージとログハウスとの組み合わせは、なかなか許可が下りず、一度は、工事が止まってしまった。根気よく役場に通



施主・会社員の高橋克実さんと奥様、長男の慶多君



▲広々したベッドルーム



(左) 天窓から星降る夜を。
(右上) 心をゆったりさせるシーリング。
(右下) 慶多君の絵も、さりげなく、インテリアに参加。



「暮らしやすさ」と同居する「ログハウスらしさ」

「マイホーム探しを突き詰めたらこうなった」といえるログハウスは、まさに、都会の生活に溶け込んだ「都市型ログハウス」と呼べるだろう。白い外観、すでに述べたいくつかの特徴に加えて、暮らしやすさを実現している点が多々ある。

部屋の配置がいい。料理しやすく出せるキッチンとリビングの関係がいい。調理しながら、ダイニングで宿題をするわが子の顔をいつでも確認でき、安心だ。居住空間から洗面所へ行きやすい動線もいい。




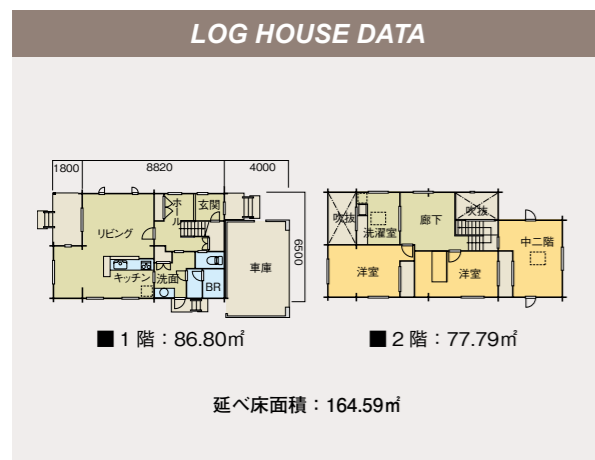
(上左) 2階多目的スペース。
(下左) 2階洗濯室。奥様たっのご希望でここに。

(上右) フィンランドミストサウナ。
(中右) シャワールームには、仲睦まじく、夫婦お二人の頭文字「K」と「A」が。
(下右) ロフトスペース。お子さんの絶好の遊びスペース。

オーナーさんからの「一言」

「話をいっぱい聞いてみることです」

私たちは、とにかくショールームなどをたくさん見て、じっくりと間取りを考えました。特に、サエラホームさんは、我儘な私たちにも、根気よく対応してくださいました。2階に洗濯室を作ることなども、そうした中でアイデアが生まれました。

家族のお気に入り入りはロフト。天井が高く、広々とした解放感がある。多目的に使える。息子さんの慶多くんも…

「僕の部屋とロフトが大好き！」

ログの暗くながちな点を考慮し、天井は高く、窓は多く配置した。北側には天窓も設けた。花粉症の奥様たっのご希望で、洗濯室は2階室内とした。

生活の快適さを求めると同時に、ログハウス「らしさ」もめいっぱい楽しめる。外装とは真逆で、内装は木目そのもの。木肌の温もりを存分に味わうことができる。

「これから、花壇を作ろうと思っています。主人も、日曜大工に精が出ているんですよ。楽しみが広がります」

住宅街の一角で、都市型ログハウスのライフスタイルが静かに花開いている。

い、何とかしてくれました。

「サエラホームさんは、最後まで、私たちのわがままを聞いてくれました」

その徹底したサービス精神が、高橋さんたちの理想のマイホームを実現した。

次第にはまっていたログ木の家での生活は、快適そのもの

高橋さんたちは、はじめから、ログハウスを希望していたわけではない。

マイホームを持ちたいと、展示場を見に行ったり、ネットで検索したり、本を見たりしているうちに、次第、次第に「木の家チック」なものがよくなっていった。

初めに気に入ったのは奥様。ご主人は、話を聞いて、当初は「えー、ログ!?!」という反応だったという。でも、次第に、二人で「はまって」行った。

すっかりその気になったご主人は、自ら、大工道具をとった。2階は、壁を張った。床も張った。外壁は、ヤニ止めし、下地を塗って、ペンキを2度塗りした。ちよくちよくと作業に混じり始めたのは、昨年のお盆頃からだ。唯一、参加できる日曜が楽しみだった。内装は住みながら完成させた。

「できた時は『作った!』って気持ちを実感しました」

入居したのは冬。意外なほど寒さを感じなかった。以前に住んでいたマンションの1階とは比べ物にならない。

「快適さを実感しています」